○議長（中上良隆君）順番16、14番　土井君。

〔14番（土井裕美子君）登壇〕

○14番（土井裕美子君）一般質問３日目、最終日でございます。お疲れのこととは思いますが、おつき合いいただきますようによろしくお願いいたします。

ただ今議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。私の質問は、地域と大学の協働によるまちづくりについてでございます。

昨年の11月29日、伊都振興局におきまして、紀の川学カフェなるものが開催をされました。主催は和歌山大学学生自主創造科学センターで、後援は伊都振興局でした。11月にそのセンターの分室が伊都振興局内にオープンしたということで、「紀の川流域の資源を生かす」と題し、和歌山大学の小田学長が講演され、その後、地域と大学が連携して次代を担う人材育成と紀の川流域の活性化に取り組もうということで、お茶を片手にカフェ形式で意見交換をいたしました。

その学長のお話の中で、何年か前から和歌山大学は橋本市と包括的な協定を結び、いろいろな事業で連携をしてゆきたいと考えているのだが、なかなか実現には至らないというお話を聞き、今回のこの質問をさせていただくことにいたしました。

今、社会では少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの低下、都市と地方のさまざまな格差の問題が取りざたをされております。地方におきましては、地域産業の低迷と人口の流出は本当に頭の痛い問題でもあります。本市では、市長をはじめ、担当課のご努力のおかげで、昨年の12月、企業立地に頑張る市町村20選に選ばれ、また新たに２社の企業誘致にも成功し、先日は念願でありましたビジネスホテルの誘致にも成功したということで、少しは明るい兆しが見えてきつつあるように思います。

しかしながら、まだまだ本市も含め、全国的に見ましても地方の活力は疲弊し、行政の力だけではなかなか成果が現れていないというのが現状であります。人が住んでみたいと思うまち、にぎわいのある魅力的なまちとは、自然が豊かで、働くところがあり、遊ぶところがあり、教育が充実した、子育てのしやすい、すべてにおいてバランスのとれたまちではないでしょうか。

そのような、魅力あるまちづくりをめざし、現在では地域再生、振興をも含めたまちづくりにおいて、産官学の協働の取り組みが不可欠であるとされています。特に今回は、全国各地で進められている大学と地域との連携、協働の取り組みの中から、大学が保有する人的・知的資源が地域の教育や文化等さまざまな分野での地域振興と活性化に貢献しつつあるという観点から、幾つか質問をさせていただきます。

①、今現在個別事業連携という形で橋本市と和歌山大学がかかわっておられる事業とその成果について、具体的にお聞かせください。

②、和歌山大学より橋本市へ地域連携推進協定の調印申し込みがあったと聞いておりますが、その経緯と現在の進捗状況、今後の予定についてお聞かせください。

③、今後、橋本市においては、大学との協働によるまちづくりについて、どのようなビジョンを持っておられるのかお聞かせください。

以上、私の１回目の質問を終わります。明

確な答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（中上良隆君）14番　土井君の一般質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

○企画部長（吉田長司君）土井議員のご質問にお答えいたします。

地域と大学の協働のまちづくりの１点目、現在和歌山大学がかかわっている事業と成果についてお答えいたします。

本市をはじめ、和歌山大学を構成団体とする橋本市地域雇用創造促進協議会では、地域提案型の雇用創造促進事業に平成18年度から３カ年事業として取り組んでいます。この３年間で120人の雇用を創出する計画となっており、伝統産業であるパイル織物の技術育成、伝統工芸、紀州へら竿づくりの後継者育成、観光プロデュース型人材育成等を行っています。

とりわけ観光プロデュース型人材育成については、和歌山大学から講師を派遣いただき、豊富なカリキュラムによる授業と地元資源開発の地元探索により成果が現れてきております。また、和歌山大学が構成団体となっている高等教育機関コンソーシアム和歌山による公開講座の開催により、生涯教育の一環として、研究成果などの講演をいただき、大学と市民の皆さまとの交流を図るなど、成果がありました。

その他にも交通バリアフリー、シニアのためのボランティアデビューお助け講座、指定管理者選考委員会、教育協議会などにおいても和歌山大学の協力により事業マネジメントや専門的なアドバイスをいただき、成果を上げているところでございます。

次に、地域連携推進協定についての経緯ですが、和歌山大学の法人化を機に地域と連携し、地域に貢献する取り組みが進められる中、平成16年に和歌山大学学長が当時の・村市長を訪問され、協定の締結について申し入れをされました。その後、事務レベルで協定案などについて協議を行いましたが、最終的に締結には至りませんでした。

現在の進捗状況及び今後の予定につきましては、昨年から協定締結に向けての協議を再開しており、本年５月に地域連携推進のための協定を締結する予定となっております。

次に、大学との協働によるまちづくりのビジョンについてですが、今議会に提案しております橋本市長期総合計画基本構想案においては、産業振興、雇用開発、生涯学習などをより効果的に推進していくため、行政と企業、大学、研究機関等との交流・連携の機会を推進することを施策展開の基本方向と位置づけております。

具体的なビジョンについて、現在協議中となっておりますが、大学との連携によって地域のまちづくり活動に関連する課題について、大学の研究や専門性を活用することや、生涯学習の風潮が強まる中、より専門的で水準の高い学習を市民の皆さまに提供できるものと考えています。また、財政面をクリアできれば、産学官連携の窓口、公開講座、生涯学習講演会などを開催する和歌山大学のサテライトの設置に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（中上良隆君）14番　土井君、再質問ありますか。

14番　土井君。

○14番（土井裕美子君）ありがとうございました。①番から順次再質問をさせていただきたいと思います。

きのうの同僚議員のご質問の中でもありました。経済部長のご答弁の中でもあったんですけれども、橋本市地域雇用創造促進協議会が、今、少しずつではあるけれども成果が現

れていると。観光プロデュース型の人材に育成や、へら鮒釣り、それから再織の体験インストラクター養成講座ですかね。これは厚生労働省の委託事業として、平成20年までの３年間の事業で行われているということですけれども、きのう経済部長の答弁にもありましたが、観光プロデュース型人材の育成の企画の中で定員がオーバーして、好評であれば２回目、３回目と続けていきますということでございましたけれども、これ、３年間の事業ということで、20年度以降の事業はどのようにお考えになっているんでしょうか。ちょっとわかりましたらお教えください。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（仲　完治君）厚労省からの助成が20年度で打ち切られるということになってございます。21年度からは何らかの形で独自でも取り組みを検討する必要があろうかと思います。

基本的には、昨日もお答えいたしましたが、地域の活性化を図るという意味では、地域の資産、文化に着目した新たな観光、つまりニュー・ツーリズムの創出と地場産業の生産向上性を通しての地域経済の活性化による雇用と創造を図りたいという考えでございますので、こうした成果を踏まえまして、さらに何らかの方策を考えてまいりたいと考えてございます。

○議長（中上良隆君）14番　土井君。

○14番（土井裕美子君）何らかの方策という、その何らかがようわかるようでわからへんような状況なんですが、私、新人研修のときにも初めてへら鮒釣りの体験をさせていただきまして、そのへら竿のお話の中で、匠工房で、橋本市の日本一のへら竿やということをコマーシャルして、橋本市以外の全国から若者が５名で来ていただいて、今その弟子入りをしているというお話も聞きまして、本当に少しずつではあると思うんですけれども、着実に雇用が広がって、橋本市に他市町村からへら鮒の弟子入りをしようという方も集まっているということでございますし、観光プロデュース型人材の育成も大分進んでいるようでございます。

そして、再織体験でインストラクターの養成講座を受けられて、実際、自立してといいますか、再織体験に目覚めて企業を興そうかという方も実際におられるということを聞いておりますので、何とかこれは３年間で補助事業が終わってしまうということがないように、企画部長の答弁にもありましたように、５月からは着実に連携に向けて取り組んでいくということでもございますので、何らかの形というのをいい方向に向けて継続していっていただけるように、これはぜひともお願いをしたいと思います。

いろいろお話を聞かせていただく中で、和歌山大学、ほかの大学もあるかと思うんですが、今回は和歌山大学を重点的にとらせていただいて、いろんな形で大学が橋本市の中でかかわってきていただいているということが１番目の質問の中でよくわかりました。本当に、これはあえて取り上げさせていただいたのは、皆さんあんまり、市民の方も、私も実際、この学長のお話を聞くまではあまり知らなかった部分が多かったものですから、あえて皆さんに知っていただきたいなということで、どのような形で今連携を持たれているのかなということで、あえて１番目の質問をさせていただいた次第でございます。

あと、ちょっと関連の中であるんですけれども、昔、何年か前かちょっとわからないんですが、立命館大学とも何か橋本市のほうで連携の事業があったというふうにお聞きしているんですけれども、もしお答えができましたらお願いいたします。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）詳しい内容についてはわからないんですけれども、平成14年ですか、立命館大学が、新興地区ということで城山台地区と、それから中心市街地地区の調査に入った経緯がございます。そのときに、立命館大学のほうから地域協定を結ばないかという話があったということは聞いてございます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）14番　土井君。

○14番（土井裕美子君）ありがとうございます。いろいろ橋本市もいろんな大学から注目をされていたということでございますね。それは提携をするとか、そういうお話はなかったんですか。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）引き継ぎを受けておる中では、提携するという話まで至らなかった、あちらから申し出があったということだけを聞いてございます。締結する話まで実を結ばなかったというのか、あっちから申し出があったけれども、市としてあまり乗っていかなかったという感じです。

○議長（中上良隆君）14番　土井君。

○14番（土井裕美子君）それはなぜ乗っていかなかったんでしょう。ちょっと昔のことでわかりませんか。ご答弁をお願いいたします。手で合図ではわかりません。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）14年の話なので、それ以上のことはちょっとわかりません。

○議長（中上良隆君）この際、50分まで休憩いたします。

（午前10時35分　休憩）

（午前10時51分　再開）

○議長（中上良隆君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問の再質問の答弁を求めます。

企画部長。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）旧橋本市では平成15年から財政健全化計画ということで、14年に財政の建て直しの問題がかなりクローズアップしている時期でございました。ということで、当時の担当の者に聞きましたら、立命館大学の教授２人が口頭で、その調査に当たって協定を結ばないかという申し出があったようでございます。ということで、それにつきましてはそういう行政の難しい時期に来ているということでお断りしたという状況でございます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）14番　土井君。

○14番（土井裕美子君）わかりました。

それでは、次の２番に移らせていただきます。平成16年に和歌山大学の学長が前市長の・村市長のほうに提携の申し入れがあったというご答弁でございましたけれども、木下市長になられてからは、学長のほうからは何もアクションはなかったですか。それだけちょっとお尋ねします。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）土井議員の再質問にお答えをしたいと思います。

前・村市長からの引き継ぎは受けてございませんけれども、和歌山大学の小田章学長さんが来られまして、ひとつサテライトのことについてお話がございました。そしてまた、その後、和歌山でも単独に学長と私も話し合いを持ったところでございます。やはり私は、橋本市の地域の活性化ということを主眼に置いておるものですから、そういう方向で今進

んでおるわけでございますけれども、やはりその中にも産官学ということ、非常に大事であるということを認識はしてございまして、先ほどの質問の中で、ああいう地域活性化創造事業等々の匠工房であるとか、高野口町の再織のお話もされましたけど、ああいう事業は基本的には３カ年で補助しますからやってくださいよと、それで切れるんですね。それで、そこで一人立ちしてもらわないかんのですよ。そこをまた補助金をいただいて、いつまで延長したらいいんかということは、これは定かやないわけで、難しいんです。その点もあるわけでございますけれども、サテライトにつきましてはできるだけ、今のところ岸和田市と橋本市が予定候補地になっておるわけでありますが、田辺市は県営でやっておるわけでございますが。

私は学長に校舎はいくらでもあいとるから、いくらでも使ってくださいよと。将来は和歌山大学の橋本分校というものを構築してくださいよと。そして、うまくやっていこうやないかということを申し上げたことだけは言えます。それについては少し進めて、５月ぐらいをめどに調印をできたらという考えで、今担当課のほうで進んでおるわけでございますが、何分財政厳しいので、これが大分要るんですよ。建物だけは、私はいくらでも使うていただいたらいいんですが、財政窮迫の折から非常に十分な応援をしかねるということは申し上げているわけでございますけれども、皆さんともまた十分協議させていただいて、本当に産官学というものを、紀の川・吉野川流域の中心になるようなまちづくりに向けて取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（中上良隆君） 14番　土井君。

○14番（土井裕美子君） ありがとうございます。ぜひ５月に向けて、まず提携をしていただいて、橋本市の発展に本当になくてはならない産官学の学でございますので、進めていっていただけたらと思いますが、ちょっと気になっていたのが、前の済んだことをごちゃごちゃ言うのも申しわけないんですけれども、市長のほうに学長からお話があってから、今まで何か担当部局のほうでいろんな会議とかを持たれたんですかね。

私が１月の末に企画部のほうにお話を伺いに行ったときには、今は全く何も進んでいない状態だということでお答えをいただきまして、岸和田市に私は視察に行かせていただいたり、田辺市のサテライトのほうにも見学に行かせていただいたり、その中で企画部長のほうともいろいろお話をさせていただいて、とてもいい話であるにもかかわらず何で進んでいないんですかということも申し上げまして、紀の川学カフェでの学長のお話の中にも、自分の任期があるので、何とか任期中には協定を実現させたいなというお話もありましたよということで、私のほうからも企画部長のほうにいろんなお話をさせていただいたかと思うんですけれども、急に５月に提携するということで動き出しまして、本当にありがたいお話なんですが、何かいろんな推進協議会のようなのを立ち上げて、担当部のほうでこういうことをやっていただこうというような会議とかというのは持たれておられますか。

というのが、岸和田市は平成14年に学長が市長を訪問されまして、15年の８月に協定書が調印されたんですけれども、それに至るまでの間に地域連携推進協議会設置検討委員会というのを５回持たれております。結局、自分の市、岸和田市にとってどういう形で大学がかかわってきていただくのがいいかということを考えた上で、そういう協定を調印しようというところで始まっておりますので、やっぱり橋本市としても、何か言うてきたから

調印しとこうかというのではなく、ある程度本当に橋本市にとって大学がどのような形でかかわってきていただくのがよいかということを議論された上で協定を結ばれるというのが本来の筋でございますので、企画部のほうではどのような会議が持たれたのかなということが気になりまして、お答えいただけたらと思います。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）和歌山大学の学長並びに尾久土氏でしたか、それと事務局の方と三、四人でございますけれども、市長室に訪れたのが昨年の春だったように思います。その中身の中心がサテライトの開設の話が主だったというふうに考えてございます。田辺市と岸和田市、橋本市のトライアングルをつくりたいなという話の中で､その話がされて、空き教室的なものを確保したらできるんじゃないのかなという形があったわけでございますけれども、その後、和歌山大学の社会連携推進課というんですか、そこが持っとるわけでございますけれども、話した中で、ちょっとそのサテライトについてはいろいろあるのやということで、ちょっと話していく中で、学長は熱意があったわけですけれども、和歌山大学の事務レベルの話でちょっとトーンダウンしたような状況がございました。

そういうことであったわけでございますけれども、また年末から商工のほうでいろいろお世話になっている関係上、そこへまたその話を進めないかという話がございました。ということで、サテライトよりも地域協定を結ぶ話を進めようじゃないかということで、年末から年明けにあったのは事実でございます。

ということで、それについて話を一旦は小休状態になっていたのは確かでございますけれども、また進めなければいけないなという矢先に、ちょうどタイムリーな、一般質問という中で、考え方でございます。

それで、遅ればせながら、２月の中頃に和歌山大学にも行ったわけでございますけれども、サテライトのほうはいろいろ問題がありますけれども、協定につきましては橋本市のめざしておる頑張ろうの五つのこととか、企業誘致のパンフレットなんかに載っていた中で、この中ではかなり大学として参画できるところがあるんじゃないかというような話がございまして、これから、これは３番になるわけでございますけれども、取り組んでいきたいという考え方でございます。経過としてはそういう状況です。

○議長（中上良隆君）14番　土井君。

○14番（土井裕美子君）答弁もれ。会議をしているのかしていないのか。

○議長（中上良隆君）企画経営室長。

○企画経営室長（野上義己君）答弁もれでございます。会議を行っているかどうかということで、経過の中で、平成16年において大学の学長が・村市長、訪問されたと。その後、一定、市町村合併等の関係もございまして、滞っておりました｡これは確かでございます。それと、昨年、私もこの企画経営室のほうへ参った折に、大学のほうの当時の担当者の方が既に退職されておりまして、担当も変わっておる中で、その一定のやりとりの中で、結果としてはまずいところもありますんやけども、滞っておったというのは確かです。それで、内部的に会議が行われたかというのは、一定そういう状況の中では、これも正直言って向こうからの返事を待っとったという状況で、こちらサイドでは、先ほどの経済部のほうから一定大学のかかわりもあった中で、一定のアポをとって、また行かなければならないという状況の内部的な打ち合わせはさせてもらっておりました。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）５月を連携の協定を予定しているということで、今現在は福祉部門のほうでかなり大学との連携で、いろいろとご協力いただいている部分もありますので、今現在市の中で各和大のほうからご協力をいただいている事業を集めているところでございます。その中で、５月まであまり時間はありませんが、本当にどういうことをめざしていくかということを、これからきちんとそういったものを立ち上げて協議をしてまいりたいと、このように思います。

○議長（中上良隆君）14番　土井君。

○14番（土井裕美子君）合併等の混乱もあってということもよくわかりますけれども、岸和田市ですと、14年から今に至るまでにはサテライトも開設されておりますし、長野県の飯田市なんかでは、18年に学長と市長が懇談を持たれて、19年５月には協定を結んで、現在、どんどん観光学市民講座だとか、それから観光学ゼミだとか、学生がどんどん年間の休みの間に飯田市のほうに入ってくるというような計画が着々と進んでおりますので、やっぱり合併でごたごたしていましたとか、そういうのでは市民の皆さま方の損失になったんじゃないかなというふうにも感じますので、何とか、済んでしまったことは今ここの場で議論をしても仕方がありませんから、もっと前向きに議論を進めていきたいと思いますので、２番目の問題はこのぐらいにしておきますけれども、ぜひとも推進協議会を立ち上げていただいて、和歌山大学と橋本市がどのようにかかわっていくかということをきっちりと、全部の市全体で考えていっていただけたらなと思いますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

それから、次に移らせていただきます。３番目です。本当に、でも、これから協定を結んでからが大変だと思うんです。これで終わりではございませんので、大学というところは本当にこれからまちづくりを行政が考える上でとても貴重な資源であって、重要なパートナーになっていくというふうに思います。

先ほど、部長の答弁の中にもございましたけれども、平成16年以降、国立大学が法人化されたことで、民間とか行政とかの連携もとってもしやすくなりまして、大学が本来の役割であるというふうに考えていました研究とか教育だけでなく、社会に貢献する社会貢献だとか地域貢献というのを重要な課題というふうに大学も位置づけておりまして、その地域に貢献していくということがこれからの大学の存在価値を高めていくものだというふうに大学側も考えていると思いますので。

また、橋本市にとりましても高等教育機関と連携をすることによって、地域全体の総合的な教育力が向上して、まちづくりというものには欠かせない人材の育成、これが大きいと思うんですね。人材が育たないとまちづくりというのは成り立っていかないと思いますので、人材の育成につながります。これからどんどん増えていくと思われます団塊の世代の方で、リタイヤした方々の生涯学習という面からも生涯学習の拠点になるのではないかと思います。

ここで教育長のほうに、生涯学習の観点、社会教育の観点から、大学と連携することによってどのようなメリットがあるというふうにお考えになっているのかをちょっとお聞かせいただきたいということと、今橋本市では生涯学習計画というのはあるのでしょうか。その辺のところも含めて、ちょっとお教えいただきたいと思います。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）本市と和歌山大学との間にこの協定が結ばれることによりまして、

産業、経済、教育、文化、行政等の分野で地域の振興あるいは活性化が期待できると思われます。教育委員会におきましては、これまでにも教育研究への指導助言とか講演会とか協議会等にもいろいろ個別助言や支援をいただいているところでございます。

専門的な学習、研究を行う高等教育機関のない橋本市が和歌山大学と協定を結ぶことによりまして、教育委員会が所管する教育あるいは文化、スポーツの分野におきまして、今まで以上に組織的、専門的な取り組みへ高めていくことができるのではないかと、そういうふうに期待をしております。

特に今後、生涯学習を軸といたしまして、施策を考えていこうとしているときに、この協定が結ばれることは大変望ましいことであると思っております。協定が結ばれた場合には、生涯学習のキーワードでございます参加と主体、そのことを大切にしまして、市民の願いを今後に反映させながら、市民が参加し、そして主体となり得る、行動することが重視された取り組みができるように、市長部局と連携をしながら進めていきたいと考えております。

○14番（土井裕美子君）答弁もれ。計画の策定はありますか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）現在、教育協議会、進めて、最終、まだ来年度もあるわけですけれども、生涯学習プランを策定いたしまして、いろいろ今後教育委員会といたしましては、生涯学習部が中心になって、そのもとに学校教育、社会教育、教育委員会も考えておるんですが、支援ということで、まず生涯学習を中心とした教育委員会をしたいと、そういうふうに思っております。

○議長（中上良隆君）14番　土井君。

○14番（土井裕美子君）ちょっとお尋ねしていなかったんですけれども、岸和田市とか田辺市では、生涯学習計画の策定に当たって、非常に和歌山大学の知的財産というのを活用されておるわけですよ。本当にこれからすごく生涯学習というのは重要なウエートを占めてくると思っておりますので、ぜひとも生涯学習計画を立てていっていただきたいと思うんですけれども、立てたからええというものではなくて、立てるに当たるプロセスというのを大切にしていただきたいんですね。

岸和田市なんですけれども、この前、岸和田市のほうに、地域と大学の共同による地域づくりというセミナーに参加してまいりまして、教育委員会の方々と一緒に。そこで、生涯学習の学習課の方が言ってらしたんですけれども、岸和田市では生涯学習のプランを立てるに当たって、足かけ２年、実質12カ月をかけた策定期間を設け、プロセスを大事にしてきたと。検討委員会の行った回数ですけれども、これはちょっとびっくりしたんですが、45回行っていると。そのメンバーですけれども、生涯学習審議会委員が７名、生涯学習推進本部から10名、行政職員30名、７名の公募市民委員、学識経験者、生涯学習課全職員、それで総勢60名を超え、産官学と議会による策定・検討体制をとったと。60名全員が一緒に会議をしたのではないんですけれども、それぞれの検討委員会、企画委員会、部会に分かれて、合計の会議の回数が45回を重ねて、岸和田市に一番即した生涯学習計画づくりをされたということでございますので、ぜひともそのプロセスを大事にしていただくということをお願いしたいと思います。その中でどんどん盛り上がってくるというか、市民の方々も巻き込んで、本当に橋本市に必要な生涯学習プランを策定していっていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

コンサルタントに今いろんな依頼をされて、

外注というんですか、出されていると思うんですけれども、委託をされていると思うんですけれども、そういうものにも和大のご協力、和大だけじゃなくてほかの大学もですけれども、大学のご協力をいただいて、自分たちで本当に１からつくり出していくという作業をすれば、経費の削減にもつながっていくのではないかなというふうに思いますので、また各部でご検討をいただけたらと思います。

インターネットで調べますと、本当に産官学の地域と大学との包括の協定というのはずらずらといっぱい出てまいりまして、ほとんどの市町村では大学のご協力をいただいて、まちづくりというのを進めていっていらっしゃいますので、きょうは一つしか私質問はしませんので、まだ少し時間もありますし、いろいろご紹介をしたいと思うんですけれども、東京の町田市なんかは、14の大学と包括協定を結んでおると。財政規模も違いますし、人口も違いますけれども、この中でいろいろいい、福祉とかだけではなくて、生涯学習だけではなくて、学校教育の現場でもどんどん学生の力も借りて、大学の力を借りて、学校教育の充実を図っているということでございました。

例えば、学生教育ボランティアによる小・中学校教育の充実ということで、細かくいっぱい書いてあるんですけど、またこの資料をご入り用でしたら、参考資料として見ていただけたらと思いますので、読んでいったら本当に１時間では足りないぐらい、いっぱいいろんな連携をされていますので、その中から橋本市がこれだったらできるだろうというものをチョイスしていただいて、考えていただいて、いいように、いい方向で動いていっていただけたらなと思いますので、よろしくお願いいたします。

４月に和歌山大学の観光学部も開設されまして、橋本市は本当に高野山の入り口でもありますので、絶好の学生たちのフィールドワーク、学生たちが来て、いろんな体験、勉強をしてくれるわけですね。フィールドワークの場所となってございますので、ぜひとも十分に検討していってください。

それから、先ほどサテライトというお話が出ましたけれども、大きな建物を建てたりだとか、そういうことを、大学を呼んでくるということは考えるんじゃなくて、ハードだけじゃなくてソフトの面で大学がまちに来たというふうに考えていっていただいたら、それほどの経費もかからないのではないかなと思っております。企業とかホテルとかも来まして、大学もやってきてくれるということであれば、本当にまちの価値といいますか、そういうのもどんどん上がっていくというふうに思いますので、よろしくお願いします。

企画のほうでは、具体的にだいたいこういうことをしたいというような、何かプランがもしおありでしたら、ちょっとお聞かせいただけたらと思うんですけれども、何かございますでしょうか。

○議長（中上良隆君） 企画部長。

○企画部長（吉田長司君） ちょっとサテライトは後にしまして、連携協定の中身の、協定を結んで何をするかという話でございますけれども、この前、いろいろ和歌山大学と協議した中では、橋本市の５本の元気なまちづくりについてはかなり興味を持ってございます。具体的に言いましたら、５本でいいましたら企業誘致のこと、それから幼保一元化というか子育て関係のこと、それと観光振興ということで、やどりの関係がございます。それと、あと一点、防災無線の関係、それから花と緑のリサイクル事業、これが橋本市の大きなテーマということで、頑張るまちづくりの中に挙げてございますが、インターネットにも掲

載してございますけれども、これについて大学として、学校としてかかわっていけないかなということがございまして、ソフト関係的なものはこれからまだしなければいけない部分がございますので、この中でいろいろ協定を結ぶ中でメニューを考えていきたいと考えてございます。

それと、サテライトにつきましてはちょっといろいろ問題がありまして、岸和田方式につきましては、場所を貸して、場所を浪切ホール、岸和田カンカンの隣でございますけれども、その場所を提供すれば講師費については全部和歌山大学持ちということでやっているようでございますけれども、それについては和歌山大学も見直していきたいと。田辺市の場合は県がかなり負担しているという状況がございます。ということで、財政的にも厳しいし、継続していくのが岸和田方式ではしんどいかなというふうなことも聞いてございます。そういうことで、橋本市と結ぶ場合はちょっとその辺も考えてほしいなということがありますので、その辺も含めて。

それと、地方でありましたら、講座が継続的に開催できるかできへんかというのがかなりの問題点ということであります。そういうこともありますので、それについては慎重にというか、もうちょっと議論を重ねていかなければいけないかなと考えてございます。

ということで、考えてございますのが、今言いました５点について、和歌山大学がかかわっていただけないかなということで、これから20年、21年以降の事業でございますので、そういうことで考えてございます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）14番　土井君。

○14番（土井裕美子君）ぜひとも設置に向けての設置検討委員会というのを立ち上げていただいて、５月ですけれども、５月までに何回か会議を重ねていただいて、ある程度の大枠をつくっての協定に持っていっていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

橋本市が非常に大学に何を求めているのかということですね、大事なことは。地域とか市民の皆さんが何を大学に期待しているのか。また、大学も地域に何を望んでいるのかというふうなことをこれから一緒になって考えていくということが大変大切だと思います。行政からだけこんなことをやりますよという押しつけ的な開催ではなくて、行政と市民、そして大学が一緒に考えられるような協議会を持っていただいて、議論をしていかれることが大切だと思います。

市民の皆さま方が主体となって動いていくことによって、より一層広がりを持っていけると思います。相乗効果が生まれてくると思います。これこそ市がこれからやっていこうとしている市民の協働でございますので、市行政と市民一丸となって知恵を出し合い、考えていってください。

それから、一つお願いしておきたいことは、難しい言葉で何とか協定とかそういうのじゃなくて、本当に市民の皆さま方にわかりやすいように伝えていってあげてください。シンポジウムとか討論会とかをするにしても、「大学がまちにやってきた」とか、そういうだれが聞いてもわかるような形で開催していっていただけたら、親しみを持って市民の皆さま方も１回行ってみようかなというふうに感じられると思いますので、だいたいいろんな形で開催するときは、わりと難しい言葉があふれているように思います。横文字とかもよく入っていますので、わからない言葉が多いんですよ、非常に行政の言葉って。だから、本当にだれでもがわかるようなやさしい言葉で、市民参加型の記念イベントなんかもまたご検

討していただけたらと思います。

最後に、市長、いろいろ企業誘致にご活躍でございますけれども、企業誘致も含めて、これからいろんなほかの大学との協定も結んでいくというようなお考えとか、市長の思いとかございましたら、最後に言っていただきたいんですけれども、よろしくお願いします。

○議長（中上良隆君） 市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君） 土井議員の再質問にお答えをしたいと思います。

非常に時代に即応した取り組みということで、大事であるということは十分認識をしてございます。ただ、和歌山大学も学校法人になっておるわけでございまして、学長いわくは、毎年三、四％ずつ経費削減をされておると。10年したらどないなるんですか。そういう点が今度はこちらへ、逃げるんやないんですよ。その辺も十分含めて、そうした、ああいう例えばサテライトの話になってまいりますと、例えば年間単位数何ぼ、二十歳以上やったら二十歳以上とか、年に数万円とか十数万円の受講費を寄せて、そしてやっていくとか、いろいろの仕組みがあろうと思うんですが、それを理解いただいたりして、うまくこれをやっていけるかどうか。

私、職員にも申し上げとるんですが、橋本市の予算枠の中で、田辺市は県がやっとるんですから、半分ぐらいはひとつ県へゆだねて、ひとつ市とでうまく、そして私のいつも申し上げとる、住んでよかった、住みたくなるまち、そういうまちを構築していくためにぜひ取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。

○議長（中上良隆君） 14番　土井君。

○14番（土井裕美子君） よくわかりました。県だけではなくて、県を超えて、他市町村、五條市もございますし、河内長野市もございますし、周辺の市町村ともまた連携をとって、この事業をぜひ成功させて、本当に住んでよかった橋本市と言っていただけるようなまちづくりをめざしていっていただきたいと要望して、私の質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（中上良隆君） これをもって、14番　土井君の一般質問は終わりました。